

2025年6月18日 全8頁

Indicators Update

2025年5月貿易統計

輸出数量は横ばい圏を維持も、円高効果等で輸出額は8カ月ぶりに減少

経済調査部 エコノミスト 秋元 虹輝

[要約]

- 2025年5月の貿易統計によると、輸出金額は前年比▲1.7%と8カ月ぶりに減少した。一方、季節調整値では、前月比+0.1%と小幅に増加した。輸入金額は前年比▲7.7%と2カ月連続で減少した、季節調整値も前月比▲0.3%と2カ月連続で減少した。貿易収支は▲6,376億円と2カ月連続の赤字、季節調整値では▲3,055億円と3カ月連続の赤字となった。
- 米国向けの自動車の部分品は金額ベース（前年比▲19.0%）に加え、数量ベース（同▲11.9%）でも大幅に減少した。一方、完成車では輸出金額が同▲24.7%と大幅に減少したものの、輸出数量は同▲3.9%と比較的小幅な減少にとどまった。これは、米国の関税政策（トランプ関税）への対応として、輸出価格を引き下げて輸出数量への影響を抑える日系メーカーの動きを反映したものとみられる。
- 2025年5月の輸出数量は前月比▲0.1%と3カ月連続で減少した。ただし、振れを均せば横ばい圏で推移している。品目別では、乗用車や医薬品の輸出が好調だった一方、アジア向けを中心に鉄鋼や集積回路(IC)、プラスチックなどの中間財の輸出が弱含んだ。地域別では、EU向けは増加した一方、米国向けやアジア向けの減少が指数全体を押し下げた。アジア向けのうち中国向けも減少した。
- 先行きの輸出数量は横ばい圏で推移するとみているが、不確実性は引き続き高い。現時点で主要輸出先における実体経済の大幅な悪化は確認できないが、トランプ関税や、その動向を巡る不確実性を背景に各国・地域で設備投資や個人消費が腰折れすれば、日本の輸出にも逆風となる。また、中東情勢の悪化により資源価格が高騰し、各国・地域の景気を下押しするリスクにも留意が必要だ。

【貿易金額】円高効果や関税対応による輸出価格の低下が輸出金額を下押し

2025年5月の貿易統計によると、輸出金額はコンセンサス（前年比▲3.7%、Bloomberg 調査）を上回ったものの、前年比▲1.7%と8カ月ぶりに減少した（**図表1**）。輸出価格が同▲3.5%と大幅に低下したことが要因だ。一方、輸出数量は同+1.8%と増加した。輸出価格の低下は、税関長公示レートが143.97円/ドル（同▲7.4%）と前年比で円高となったことに加え、後述する通り、自動車メーカーを中心に、米国の追加関税によるコスト増を日本の輸出企業が実質的に負担する動きを反映したものとみられる（巻末の図表「輸出額の変化とその要因分解」を参照）。

5月は自動車の部分品への品目別関税が発動されたこともあり、米国向けの自動車の部分品は金額ベース（前年比▲19.0%）に加え、数量ベース（同▲11.9%）でも大幅に減少した。一方、完成車（自動車）では、輸出金額は同▲24.7%と大幅に減少したものの、輸出数量では同▲3.9%と比較的小幅な減少にとどまっており、上記の通り、輸出価格を引き下げて輸出数量への影響を抑える日系メーカーの動きがあった可能性が示唆される。輸出金額の季節調整値は前月比+0.1%と3カ月ぶりに増加した（**図表2左**）。輸出数量（大和総研による季節調整値、以下同）が同▲0.1%と小幅に減少した一方、輸出価格が同+0.2%と上昇した。

輸入金額は前年比▲7.7%と2カ月連続で減少した。円高効果やエネルギー価格の低下を背景に、輸入価格が同▲9.2%と大幅に低下したことが要因だ。一方、輸入数量は同+1.7%と3カ月連続で増加した（**図表1**）。輸入金額の季節調整値も前月比▲0.3%と2カ月連続で減少した。原系列と同様、輸入数量が増加した一方、輸入価格が低下した（**図表2右**）。

貿易収支は▲6,376億円と2カ月連続の赤字となった。貿易収支の実勢を示す季節調整値でも▲3,055億円と3カ月連続の赤字となった。輸出金額が増加し、輸入金額が減少したことで貿易収支の赤字幅が縮小した（**図表3**）。

図表1：貿易統計の概況

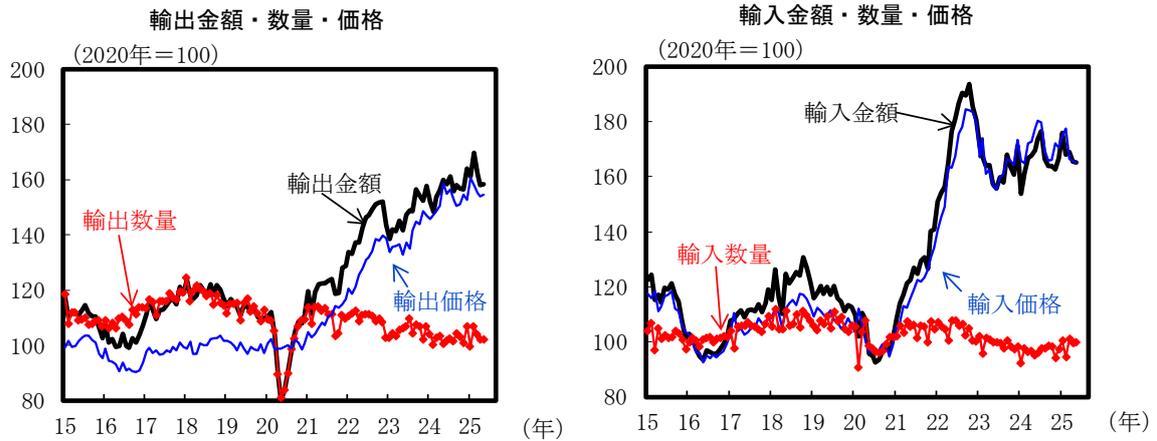
		2024年				2025年				5月
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
原系列 前年比 %	輸出金額	▲1.8	3.1	3.8	2.7	7.3	11.4	4.0	2.0	▲1.7
	コンセンサス									▲3.7
	DIRエコノミスト予想									▲2.7
	輸入金額	1.9	0.5	▲3.8	1.8	16.3	▲0.7	1.9	▲2.2	▲7.7
	輸出数量	▲6.9	0.1	▲0.1	▲2.6	▲1.7	2.9	▲0.8	0.5	1.8
	価格	5.5	3.0	3.9	5.5	9.1	8.3	4.8	1.5	▲3.5
	輸入数量	▲1.4	2.5	▲5.5	1.8	8.5	▲4.1	5.0	2.8	1.7
価格	3.4	▲1.9	1.9	0.0	7.2	3.6	▲2.9	▲4.9	▲9.2	
	貿易収支(億円)	▲3,061	▲4,723	▲1,155	1,277	▲27,417	5,855	5,543	▲1,156	▲6,376
季節 調整値 前月比 %	輸出金額	1.4	▲0.8	▲0.1	4.9	▲1.8	5.3	▲4.4	▲2.5	0.1
	数量	2.8	▲1.1	▲2.3	6.1	▲6.7	7.0	▲2.6	▲1.8	▲0.1
	価格	▲1.4	0.4	2.2	▲1.1	5.2	▲1.6	▲1.9	▲0.7	0.2
	輸入金額	▲1.4	0.1	▲0.9	2.5	5.6	▲4.5	0.4	▲1.9	▲0.3
	数量	0.8	▲0.2	▲4.2	3.4	3.1	▲6.0	7.0	▲1.4	0.3
	価格	▲2.2	0.3	3.5	▲0.9	2.5	1.6	▲6.2	▲0.5	▲0.7
	貿易収支(億円)	▲2,586	▲3,342	▲2,678	▲613	▲7,623	1,666	▲3,008	▲3,492	▲3,055
	税関長公示レート	144.27	145.87	152.83	152.48	157.20	154.61	149.55	147.70	143.97

(注1) 税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

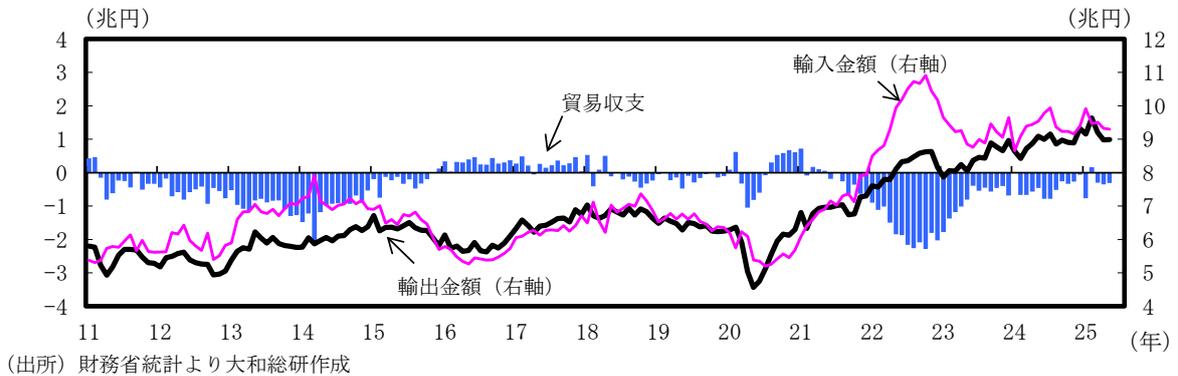
(注2) 数量と価格の季節調整値は大和総研による。

(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

図表 2 : 輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格 (季節調整値)



図表 3 : 輸出、輸入、貿易収支 (季節調整値)



【輸出数量】輸出数量は横ばい圏で推移し、医薬品・半導体関連製品に前倒し輸出の兆候も

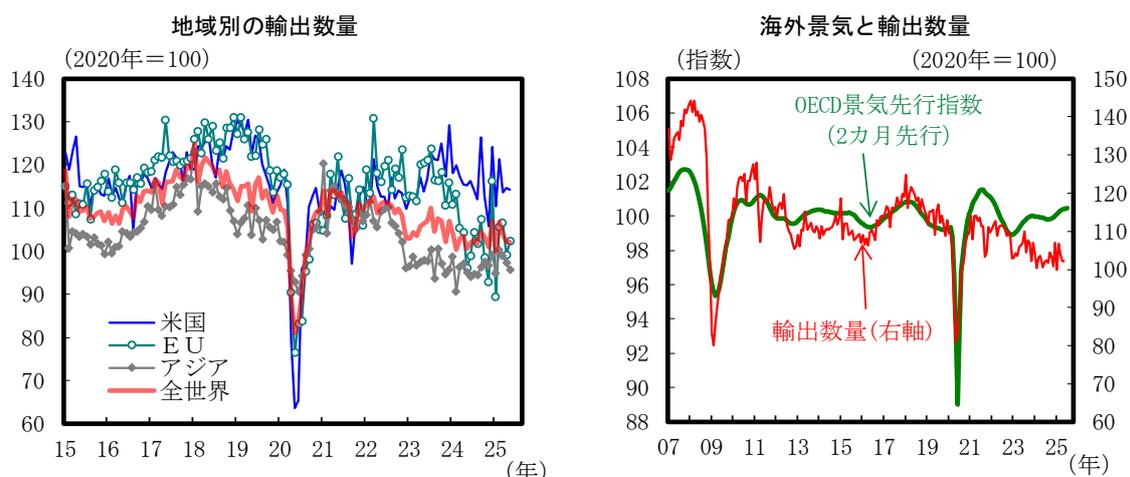
2025年5月の輸出数量は前月比▲0.1%と3カ月連続で減少した。ただし、振れを均せば横ばい圏で推移している(巻末の図表「地域別の輸出数量(季節調整値、3カ月後方移動平均)」を参照)。品目別では、乗用車や医薬品の輸出が好調だった一方、アジア向けを中心に鉄鋼や集積回路(IC)、プラスチックなどの中間財の輸出が弱含んだ。地域別では、EU向け(同+3.1%)は増加した一方、米国向け(同▲0.4%)やアジア向け(同▲1.5%)の減少が指数全体を押し下げた。アジア向けのうち中国向け(同▲0.2%)も減少した。

米国向けは2カ月ぶりに減少した。シリコンサイクル(世界半導体市場に見られる循環)の回復が一服したことを背景に半導体関連財(半導体等製造装置、集積回路(IC)等)が減少したほか、関税の影響もあり、自動車の部分品、バス・トラック、非鉄金属などが減少した。一方、自動車や医薬品、電算機類(含周辺機器)は増加した。医薬品や電算機類(含周辺機器)の増加は、今度導入が検討されている医薬品・半導体関連製品(パソコン等)への品目別関税を念頭に置いた前倒し輸出を反映している可能性がある。

EU向けは2カ月ぶりに増加した。二輪自動車や医薬品、映像記録・再生機器等の消費財に加え、電算機類の部分品、鉄鋼、プラスチック、自動車の部分品、原動機等の中間財も増加した。他方、乗用車やバス・トラック、ICやベアリングは減少した。

アジア向けは3カ月連続で減少した。鉄鋼や非鉄金属、プラスチック、ICなど主力品目である中間財を中心に減少した。一方、自動車、医薬品、半導体等製造装置や振れの大きな船舶は増加した。中国向けも3カ月連続で減少した。半導体等製造装置や自動車が増加した一方、鉄鋼やプラスチック、ICなどが減少した。

図表4：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量(季節調整値)



【見通し】横ばい圏での推移を見込むも、不確実性の高い状況が継続

先行きの輸出数量は横ばい圏で推移するとみているが、不確実性は引き続き高い。米トランプ政権の高関税政策（トランプ関税）や、その動向を巡る不確実性を背景に各国・地域で設備投資や個人消費が腰折れすれば、日本の輸出にも逆風となる。また、中東情勢の悪化により資源価格が高騰し、各国・地域の景気を下押しするリスクにも留意が必要だ。

米トランプ政権は2025年4月2日に相互関税を発表した。4月5日以降、各国・地域に対して一律10%のベースライン関税が課されているが、日本などを対象とした上乗せ税率については現在適用が一時停止されており、米国との関税交渉が行われている段階だ。当社のメインシナリオでは、対米交渉の進展もあって、米国による関税率の大幅な引き上げは回避されると想定している¹。

輸出数量の先行きを地域別に見ると、米国向け、中国向け、欧州向けのいずれも横ばい圏内で推移するとみられる。米国向けは自動車関税の影響が注目点だ。2025年5月までの動きを見ると、多くの日系自動車メーカーは、ドル建ての輸出価格を下げることで関税による追加コストを実質的に負担し、現地販売価格を据え置いていた²。日米交渉に進展が見られるまでは、上記戦略で輸出数量への影響を回避しながら時間を稼ぐメーカーも多いとみられる。ただし、一部の日系自動車メーカーは6月に現地販売価格を引き上げることを発表しており³、各社で追随する動きが進めば、輸出数量への下押しも懸念される。

中国では、米国による「相互関税」の上乗せ税率が2025年4月上旬以降、一時115%まで引き上げられたが、5月24日にはそのうち24%pt分を90日間停止し、91%pt分は撤廃された。米国の対中追加関税は当面30%となっている。中国経済の大幅な減速により日本からの輸出が大きく減少するという最悪の事態は、一旦は回避されたといえよう。

2025年5月のユーロ圏の総合PMI(S&P Global)は、50.2と2カ月連続で低下した。製造業の指数は33カ月ぶりの水準に回復する一方、サービス業の指数が低下し、好不況の目安となる50を割り込んだ。欧州では、これまで経済を下押ししてきた製造業の縮小が和らぎつつある一方、不確実性の高まりから内需に弱さも見られ、総じてみれば足踏みが続いている。このため、日本からの輸出も一進一退が続くとみられる。加えて、米中貿易摩擦を受け、安価な中国製品が欧州市場に多く出回る場合、相対的に日本製品の市場シェアが低下し、日本の欧州向け輸出への逆風となる可能性にも留意が必要だ。

¹ 詳細は、「[第225回日本経済予測（改訂版）](#)」（大和総研レポート、2025年6月9日）を参照。

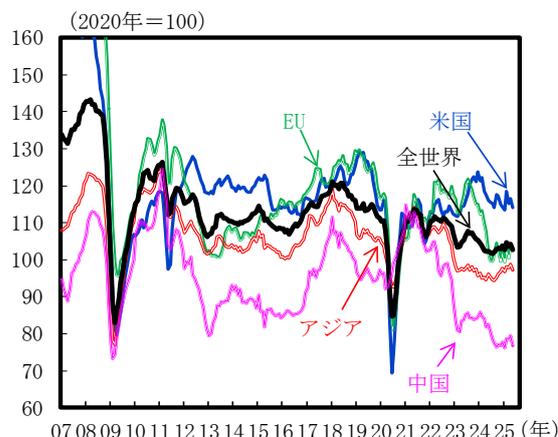
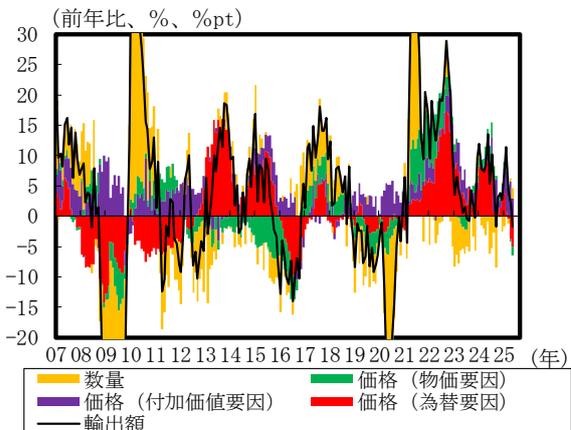
² 2025年5月の企業物価指数（日本銀行）によれば、北米向けの乗用車の輸出物価指数は契約通貨ベースで3月の指数から17.7%低下している。

³ 詳細は、「[三菱自動車、米国で平均2.1%値上げ インフレや関税でコスト増](#)」（日本経済新聞電子版、2025年6月18日）、「[SUBARUが米で値上げ 最大30万円、トランプ関税影響](#)」（日本経済新聞電子版、2025年5月20日）などを参照。

概況

輸出額の変化とその要因分解

地域別の輸出数量（季節調整値、3カ月後方移動平均）

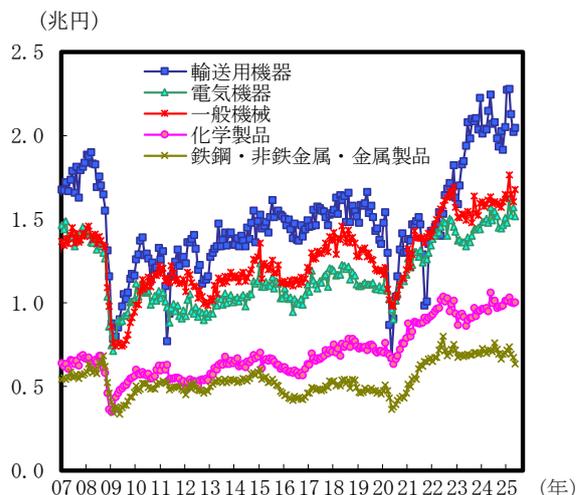
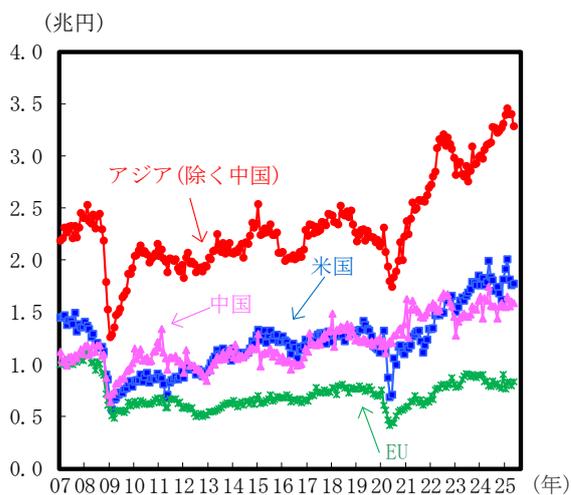


(注) 価格 (付加価値要因) は、輸出物価指数 (円ベース) で実質化した輸出額と輸出数量それぞれの増加率の差。価格 (物価要因) は、輸出物価指数 (契約通貨ベース) の上昇率。価格 (為替要因) は、輸出物価指数 (円ベース) の上昇率と価格 (物価要因) の差。季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

主要地域・国別の輸出額（名目、季節調整値）

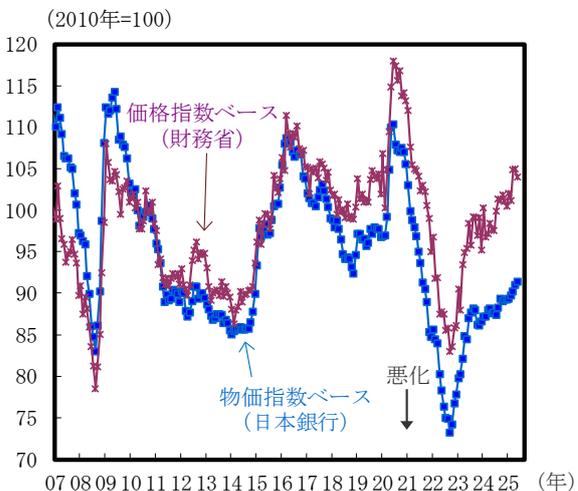
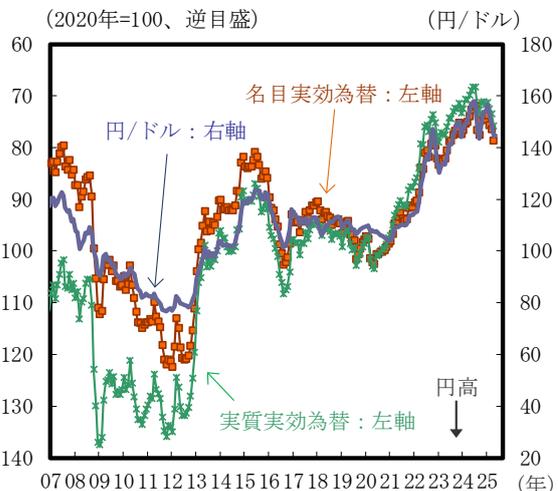
主要商品別の輸出額（名目、季節調整値）



(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

為替相場

交易条件



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。輸出入価格指数の直近値は大和総研による試算値。
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

輸出金額 内訳								
	2024/12	2025/01	2025/02	2025/03	2025/04	2025/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	2.7	7.3	11.4	4.0	2.0	▲1.7	100.0	▲1.7
食料品	27.6	13.0	24.9	23.4	18.4	17.0	1.3	0.2
原料品	2.5	10.6	3.3	0.9	5.5	▲7.1	1.7	▲0.1
鉱物性燃料	▲0.0	15.4	4.5	▲50.5	▲19.3	▲50.7	0.5	▲0.5
化学製品	6.1	5.2	7.5	3.6	4.9	▲5.6	11.4	▲0.7
原料別製品	0.3	▲0.9	6.2	▲0.1	▲3.9	▲9.0	11.4	▲1.1
鉄鋼	0.3	▲4.1	▲1.8	▲8.2	▲12.3	▲20.6	3.8	▲1.0
非鉄金属	▲1.4	1.8	15.4	10.1	1.4	▲5.0	2.6	▲0.1
金属製品	3.3	▲1.4	4.9	0.2	1.2	2.6	1.4	0.0
一般機械	3.7	0.8	11.6	3.7	▲0.5	3.1	18.6	0.5
電気機器	4.7	▲0.6	9.7	1.4	6.1	▲3.5	16.3	▲0.6
半導体等電子部品	6.5	2.2	10.9	4.2	13.2	▲8.8	5.4	▲0.5
I C	8.8	0.2	7.1	1.9	12.9	▲16.4	3.8	▲0.7
映像機器	▲9.2	▲3.5	▲9.0	▲20.7	▲5.4			
映像記録・再生機器	▲2.5	19.3	0.9	▲1.3	30.1	18.8	0.4	0.1
音響・映像機器の部分品	▲16.2	▲10.0	▲7.0	▲7.1	▲11.5	▲28.0	0.1	▲0.1
電気回路等の機器	0.8	5.2	12.9	3.5	4.5	4.7	2.1	0.1
輸送用機器	▲7.6	12.0	11.7	4.2	▲5.9	▲8.1	20.6	▲1.8
自動車	▲5.9	10.5	13.4	7.1	▲5.8	▲6.9	15.0	▲1.1
自動車の部分品	▲2.9	▲8.8	2.0	▲6.5	▲4.9	▲11.4	3.3	▲0.4
その他	14.7	22.1	19.9	15.8	15.2	15.3	18.2	2.4
科学光学機器	5.0	4.0	14.0	3.5	▲2.5	2.1	2.5	0.0

米国向け輸出金額 内訳								
	2024/12	2025/01	2025/02	2025/03	2025/04	2025/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲2.1	8.1	10.5	3.1	▲1.8	▲11.1	100.0	▲11.1
食料品	39.5	24.0	32.4	21.1	23.6	15.8	1.3	0.2
原料品	14.5	4.3	2.2	5.7	10.7	▲15.8	0.4	▲0.1
鉱物性燃料	70.6	▲86.8	16.1	▲90.8	▲77.9	▲91.1	0.0	▲0.3
化学製品	▲17.8	▲3.4	▲1.9	12.4	9.4	▲13.0	8.2	▲1.1
原料別製品	▲0.7	▲5.9	13.3	0.3	▲6.3	▲1.8	7.0	▲0.1
鉄鋼	0.6	▲12.8	3.9	▲16.6	▲29.0	▲1.5	1.5	▲0.0
非鉄金属	▲0.8	0.2	46.9	15.7	▲0.8	▲5.2	0.9	▲0.0
金属製品	2.6	4.9	2.0	1.7	2.3	6.6	1.6	0.1
一般機械	▲0.9	▲0.6	3.1	▲5.3	▲7.2	▲1.1	24.6	▲0.3
電気機器	16.2	8.8	11.7	6.1	10.2	▲5.4	14.1	▲0.7
半導体等電子部品	13.8	19.0	2.6	35.8	▲0.5	▲29.3	1.0	▲0.4
I C	9.5	5.4	▲2.8	23.3	▲4.9	▲33.6	0.5	▲0.2
映像機器	▲9.5	21.3	0.2	1.4	61.7			
映像記録・再生機器	▲11.6	11.5	▲7.7	▲3.8	66.8	30.8	0.5	0.1
音響・映像機器の部分品	▲32.4	▲18.5	▲9.4	▲23.1	▲7.3	▲29.1	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	13.4	9.8	15.0	2.9	3.5	▲1.7	1.3	▲0.0
輸送用機器	▲7.8	12.6	10.0	1.0	▲4.1	▲23.8	31.4	▲8.7
自動車	▲6.8	21.8	13.9	4.1	▲4.8	▲24.7	24.0	▲7.0
自動車の部分品	▲2.6	▲13.4	0.9	▲10.7	▲5.0	▲19.0	5.2	▲1.1
その他	0.6	32.6	30.8	22.2	▲1.5	0.4	12.9	0.0
科学光学機器	▲5.8	21.7	27.1	0.8	0.4	14.8	3.0	0.3

EU向け輸出金額 内訳								
	2024/12	2025/01	2025/02	2025/03	2025/04	2025/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	0.5	▲15.0	▲7.7	▲1.1	▲5.2	4.9	100.0	4.9
食料品	36.4	15.8	5.6	21.3	▲12.7	19.5	0.9	0.2
原料品	73.7	▲20.7	▲12.7	50.6	▲3.6	25.3	1.5	0.3
鉱物性燃料	▲84.9	▲24.9	▲2.7	343.4	6.2	▲7.0	0.1	▲0.0
化学製品	11.5	0.4	▲8.4	▲1.0	▲1.1	▲4.9	11.9	▲0.6
原料別製品	▲2.6	▲16.6	▲9.4	▲10.2	▲25.4	8.5	8.5	0.7
鉄鋼	▲37.9	▲34.6	▲30.4	▲43.6	▲61.0	▲17.1	1.5	▲0.3
非鉄金属	29.6	3.4	4.8	31.1	11.8	75.5	1.4	0.6
金属製品	8.7	▲16.1	▲8.3	0.8	▲1.2	1.8	1.5	0.0
一般機械	6.2	▲20.1	▲11.0	▲11.9	▲8.4	1.0	19.1	0.2
電気機器	0.5	▲7.5	▲3.7	▲3.3	1.3	6.0	17.6	1.0
半導体等電子部品	▲23.8	▲2.6	▲1.5	1.0	29.2	23.9	2.7	0.5
I C	▲40.4	▲9.6	▲13.9	▲27.9	76.7	43.2	1.0	0.3
映像機器	8.1	19.3	1.4	▲7.3	35.6			
映像記録・再生機器	12.9	14.7	▲4.0	▲4.6	37.2	13.4	1.0	0.1
音響・映像機器の部分品	▲18.3	▲5.6	▲15.4	▲8.1	▲13.2	▲17.0	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	▲11.5	▲7.9	▲6.6	▲1.9	▲1.8	8.5	1.7	0.1
輸送用機器	▲11.2	▲29.3	▲13.9	7.1	▲10.8	9.3	21.3	1.9
自動車	▲19.3	▲31.9	▲27.6	8.7	▲17.0	14.9	13.8	1.9
自動車の部分品	▲13.7	▲41.5	▲6.5	▲10.1	▲9.9	▲12.2	3.9	▲0.6
その他	8.0	3.7	6.7	2.9	10.3	6.7	19.1	1.3
科学光学機器	4.9	▲13.4	7.8	2.0	▲23.5	▲0.8	4.3	▲0.0

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2024/12	2025/01	2025/02	2025/03	2025/04	2025/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	5.7	6.3	15.7	5.6	6.0	0.4	100.0	0.4
食料品	19.1	2.8	23.7	17.1	14.8	11.3	1.4	0.1
原料品	▲3.7	12.8	6.0	▲4.4	6.6	▲9.2	2.6	▲0.3
鉱物性燃料	25.9	29.7	38.9	▲36.5	▲7.7	▲40.5	0.8	▲0.6
化学製品	7.6	2.6	10.8	3.9	4.3	▲2.9	14.7	▲0.4
原料別製品	▲0.6	▲2.0	4.3	2.5	▲0.9	▲10.2	13.7	▲1.6
鉄鋼	0.5	▲7.7	▲6.1	▲4.7	▲8.3	▲22.5	4.6	▲1.3
非鉄金属	▲2.2	3.0	9.7	10.3	4.2	▲6.4	4.2	▲0.3
金属製品	▲2.8	▲5.4	8.3	▲0.7	3.9	3.7	1.4	0.0
一般機械	5.2	4.7	23.9	11.4	5.4	4.2	18.4	0.7
電気機器	2.8	▲1.2	13.8	2.2	7.7	▲3.4	20.0	▲0.7
半導体等電子部品	7.4	1.2	12.2	3.0	13.4	▲9.3	8.8	▲0.9
IC	10.0	0.3	8.1	2.2	12.8	▲16.6	6.5	▲1.3
映像機器	▲19.6	▲10.9	▲13.7	▲31.5	▲23.9			
映像記録・再生機器	▲9.8	31.3	10.4	▲5.3	16.5	8.9	0.3	0.0
音響・映像機器の部分品	▲13.7	▲10.5	1.0	▲7.1	▲18.4	▲32.0	0.2	▲0.1
電気回路等の機器	0.9	5.9	18.3	5.3	6.6	6.7	2.8	0.2
輸送用機器	1.6	22.4	16.5	4.0	▲7.8	▲4.4	7.4	▲0.3
自動車	▲0.6	14.9	26.2	14.9	▲5.4	▲7.5	4.5	▲0.4
自動車の部分品	▲6.0	2.7	3.6	0.6	0.6	▲0.4	2.2	▲0.0
その他	13.5	16.1	21.7	13.7	19.1	19.2	21.1	3.4
科学光学機器	9.2	4.0	11.6	4.3	3.5	▲1.5	2.5	▲0.0

中国向け輸出金額 内訳								
	2024/12	2025/01	2025/02	2025/03	2025/04	2025/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲3.2	▲6.1	14.0	▲4.8	▲0.6	▲8.8	100.0	▲8.8
食料品	15.1	14.9	43.6	14.8	18.8	5.0	0.8	0.0
原料品	▲18.0	16.2	27.2	▲9.6	11.7	▲5.2	3.2	▲0.2
鉱物性燃料	▲29.8	26.1	40.3	5.7	3.4	5.0	0.6	0.0
化学製品	10.6	▲2.9	19.9	1.9	9.5	▲5.3	18.8	▲1.0
原料別製品	▲4.0	▲8.1	13.1	▲8.4	▲3.7	▲23.7	11.2	▲3.2
鉄鋼	▲11.4	▲20.3	▲0.2	▲11.5	▲10.6	▲27.9	2.4	▲0.9
非鉄金属	2.8	3.5	15.8	▲8.9	▲7.5	▲38.1	3.8	▲2.1
金属製品	▲8.5	▲11.2	13.0	▲6.5	4.1	3.9	1.6	0.1
一般機械	▲9.7	▲14.4	2.9	▲4.7	▲4.9	▲8.6	24.9	▲2.1
電気機器	▲3.6	▲12.5	10.1	▲11.2	▲5.6	▲8.9	19.4	▲1.7
半導体等電子部品	6.4	▲13.6	▲2.6	▲15.9	▲12.7	▲13.7	6.7	▲1.0
IC	11.3	▲12.4	▲9.8	▲15.5	▲19.1	▲17.1	4.9	▲0.9
映像機器	▲3.4	▲2.7	▲2.5	▲36.9	▲22.2			
映像記録・再生機器	▲20.0	174.6	20.1	▲23.7	28.0	17.2	0.5	0.1
音響・映像機器の部分品	20.3	5.8	64.7	29.7	29.6	15.1	0.2	0.0
電気回路等の機器	▲3.7	8.3	27.6	5.2	6.2	3.3	3.3	0.1
輸送用機器	▲16.8	6.6	3.9	▲6.0	▲13.2	▲19.7	6.5	▲1.5
自動車	▲18.6	2.8	0.6	▲2.5	▲15.6	▲23.0	4.4	▲1.2
自動車の部分品	▲10.1	6.0	6.2	▲10.3	▲10.6	▲11.3	1.8	▲0.2
その他	9.4	▲2.0	37.2	▲0.6	8.0	6.2	14.5	0.8
科学光学機器	14.7	▲11.0	11.8	▲13.9	▲2.8	▲4.3	3.5	▲0.1

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成